



DXの取り組みについて

マナツル商事株式会社

2025年12月12日

当社はDXを経営戦略の中核として位置づけ、
教育分野におけるデジタル技術の活用を通じて
新しい学びの価値創造を実現してまいります。

マナツル商事株式会社 代表取締役 季 杰

会社の事業構造におけるDX事業の役割

内部DXの推進

当社は業務効率化と人材育成の高度化を目的に、社内にeラーニングとLMS(学習管理システム)を導入しました。これにより、社員教育をオンライン化し、製品知識や品質管理スキルを効率的に習得できる環境を整備しました。その結果、教育コストの削減、習熟度の均一化、業務エラーの大幅な減少を実現しました。こうした取り組みは、DXが企業の競争力強化に直結することを証明しています。

外部DXによる新価値創出

この社内DXの成功を踏まえ、当社は教育分野でのDXを顧客にも提供するため、デジタル実習プラットフォーム「DIFO(デジタルフォレスト)」を開発しました。DIFOは、教育機関や企業向けに教材のデジタル化、技能習得支援、データ活用を可能にし、安全性と学習効率を飛躍的に向上させる次世代型ソリューションです。社内で培ったノウハウを顧客価値に転換することで、当社は「ものづくり領域における新しい教育モデル」を創出し、これを第二の事業の柱として明確に位置づけています。



DX推進に向けた当社の考え方

経営ビジョン

“学びと技能をデジタルで進化させ、未来の学びを創造し、社会の成長に貢献する。”

社会背景

デジタル技術の進展により、
学び方・働き方・技能継承のあり方が大きく変化。

- 技術人材不足
- 実習設備の老朽化
- 教材更新の難しさ
- 安全教育ニーズの増加

“安心・安全で効率的な学び環境の実現”が不可欠。

DX-A: デジタル実習環境の構築

デジタル実習プラットフォーム
(DIFO)

安全に、何度も繰り返し学べる環境
教育成果の可視化と学習データ活用

DX-B: 教材・研修のデジタル化

教材デジタル化
(3D教材・動画教材・シミュレーション)

企業研修の高度化と効率化
データに基づく理解度判断

DX-C: 新しい学びの価値創造

教育 DX サービス全体の高度化

新しい学習手法・研修モデルの創出
社会全体の技術力向上への貢献

今後の方向性

「DIFO」および教育 DX サービスを通じ、教育・研修の質向上と新しい学びの創出に取り組み、社会全体の成長に貢献してまいります。

当社を取り巻く環境とDX推進3つの領域

■ 当社を取り巻く外部環境

教育や研修分野は現在、以下の外部環境変化に直面しています。

- 技術者不足・技能伝承の断絶・学習者の習熟度格差の拡大
- 実習設備の維持コスト増加
- 安全教育の重要性の高まり
- デジタル教材の不足と更新負担・研修のオンライン化需要

これらの課題は教育機関・企業の双方に共通しており、「安全・効率・標準化・データ活用」を軸とした DX 推進が不可欠です。

■ DX推進3つの領域



DX-A: 自社業務の効率化 (自社DX)

- 業務の生産性向上
- 教材管理のデジタル化
- クラウドストレージによる資料共有
- オンライン商談・リモートワーク活用
- 開発や営業プロセスのデジタル化



DX-B: 顧客DXの推進 (教育DX・研修DX)

- データ活用ビジネスへの投資
- デジタル実習環境の提供
- 電気工事士向け模擬試験
- LMS 連携による学習データ分析
- 教材デジタル化サービス
- 研修標準化と安全教育支援



DX-C: 新しい価値創造 (次世代DX領域)

- 新しいビジネス創造
- 教育改善支援シミュレーション
- 各分野への応用展開
(機械・電気・建設等)
教育機関・企業との共同開発

マナツル商事の経営ビジョン

「学びと技能をデジタルで進化させ、未来の学びを創造し、社会の成長に貢献する。」

マナツル商事の目指す姿



DX-A

＜デジタル技術活用の方向性＞ 業務プロセスのスマート化 (自社DX)

- 教材管理の効率化
- オンライン資料共有
- 営業・開発のデジタル化



DX-B

データ活用による 教育・研修価値の最大化

- 教育・研修改善
- 学習データ分析
- デジタル教材サービス



DX-C

新しい事業領域と デジタル教材の革新

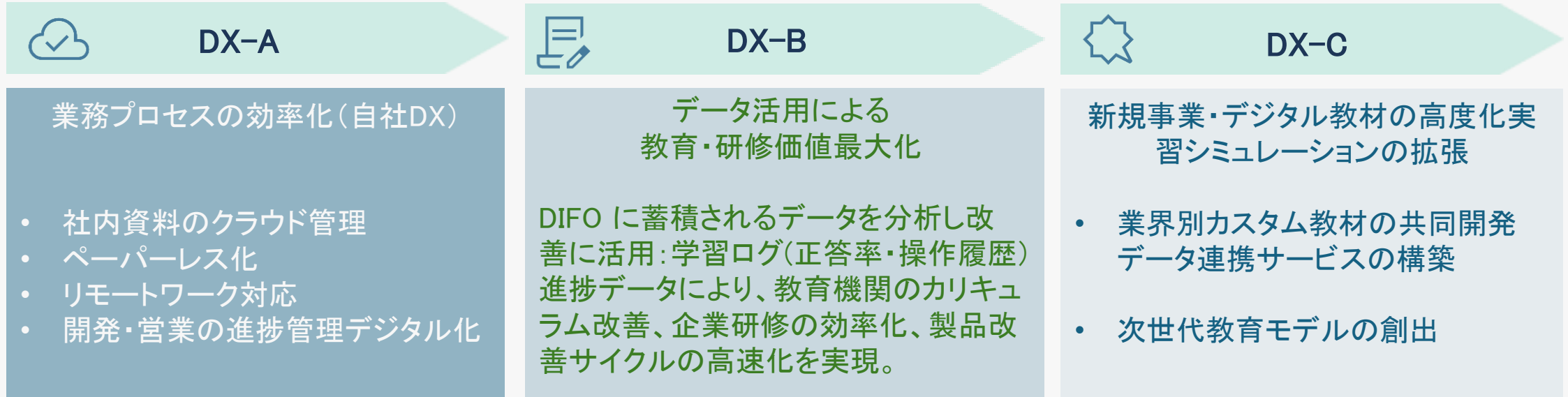
- 新規事業創造
- 次世代教材開発
- 教育DXサービス高度化

当社が描くDX像

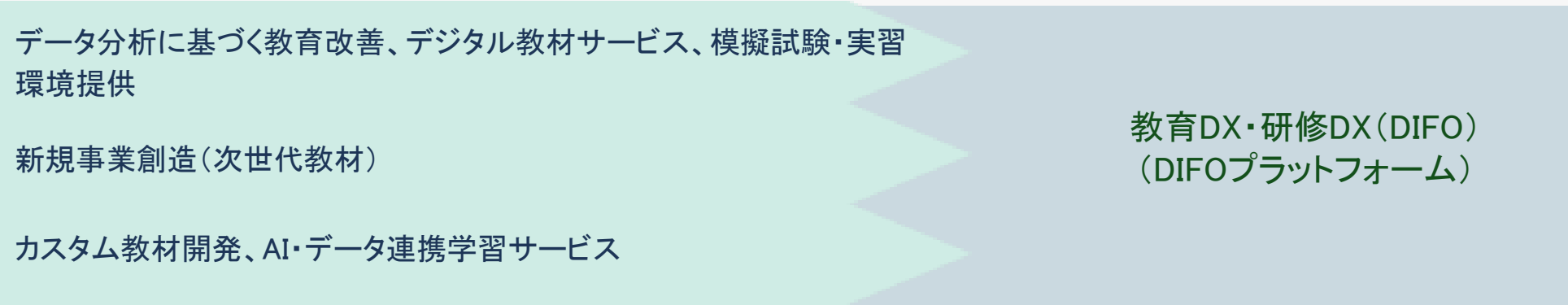
お客さま視点の価値創造 とデジタル技術を活用した学びの革新を通じ、社会の成長に寄与する。

当社のDX戦略の展開の方向性

当社は、デジタル技術を活用した業務効率化(DX-A)、データ活用による教育・研修価値向上(DX-B)、次世代デジタル教材の創出(DX-C)を軸に、将来の事業発展に向けたDX戦略を展開しています。



自社業務デジタル化 教育DX・研修DX(DIFO)



当社のDX戦略の方向性

人材育成

DX 推進の鍵となる人材基盤の強化に向けて、IT知識だけでなく、業務理解・課題解決能力を兼ね備えた人材育成を重点的に進めています。
国家資格(ITパスポート・基本情報技術者)や AWS 認定資格の取得支援に加え、IPA「DXスキル標準」に沿ったスキル向上施策を展開することで、全社員のデジタルリテラシー向上と専門性強化を図っています。

- ・ITパスポート
- ・基本情報技術者
- ・AWS 認定資格
- ・IPA DXスキル標準に即したスキル向上

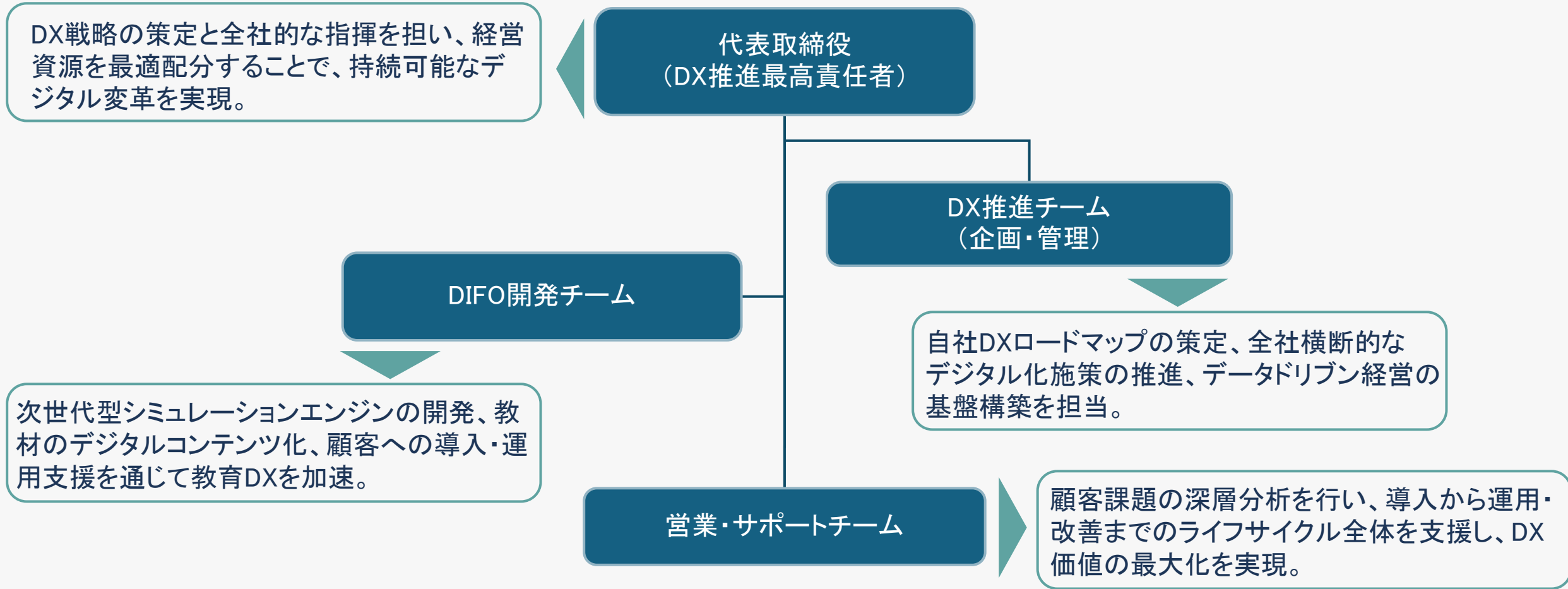
ITシステムの環境整備

当社では、事業のデジタル化を支える基盤として、ITインフラ環境の強化を継続的に進めています。通信・ネットワークの安定化、リモートワーク環境の整備、セキュリティ体制の強化に加え、クラウドサービスなど積極的な活用を通じて、業務の効率化と情報共有の高度化を図っています。

- ・通信・インフラ整備
- ・リモートワーク環境
- ・セキュリティ体制整備
- ・クラウド移行／SaaS の活用
- ・地域企業へのクラウド連携支援

>> DX推進体制

当社は以下の体制でDXを推進しています。



>> DX人材の育成・確保

事業の理解とデジタルスキルを兼ね備えたDX人材が継続的に育つ環境を整えることで、組織全体の成長と競争力向上を支える育成基盤を構築しています。

【育成・確保のテーマ】業務に精通したDX人材育成・確保

DX関連資格取得の推奨／成熟度向上

ITパスポート等、DX関連資格の取得を推進
新規事業を担うPM資格(PMP/IPA高度)の取得支援

「DX推進スキル標準」における
DIFO開発を通じた実践型スキル育成(UI/UX・教材デジタル化・3D制作技術)

DIFO開発プロジェクトでのアジャイル開発・スクラム実践

グループ企業や教育機関との共同研究・共同教材開発

副業人材・パートナー企業との協働によるOJT型育成

DX 推進のための環境整備

社員が働きやすい・学びやすい環境を整備し、教育DX・企業研修DX・社内DX を推進するため、当社では以下の環境整備を進めています。

【環境整備のテーマ】デジタル基盤の強化とセキュリティ対策

社内環境の整備

クラウドストレージによる教材・資料共有、デジタル制作環境(3Dツール・制作環境)の導入、オンライン会議・リモート業務環境の整備、ペーパーレス化の推進

セキュリティ対策強化

セキュリティ整備(現在計画中)、MFA(多要素認証)の導入、SECURITY ACTION「一つ星」宣言に向け、情報セキュリティ規定の策定を推進中、社内ネットワークの見直しと安全対策の強化

データガバナンス・情報管理体制の整備

データガバナンス規程の整備、事業データ・教材データの分類と管理ルール策定、アクセス権限管理の見直し、将来的なデータ連携基盤構築に向けた準備

外部人材・専門知識の活用

- ・ 事業理解と専門性向上を目的として、外部専門人材・パートナーとの協業体制を構築
- ・ 教育機関や企業との連携による研修受入れ・共同プロジェクトへの参加
- ・ 小規模組織の特性を活かし、必要に応じた柔軟な人材活用と知見導入を実施

>> 更なるDX推進に向けて

当社は DX 推進の状況を定期的に評価・改善し、その結果を適宜公開することで、継続的なDX推進を図ります。

■ DX戦略に紐づく指標(KPI)



業務プロセス効率化に係る指標
(自社DX)

- 書類・教材のデジタル化率
- ペーパーレス化率
- 社内クラウド利用率
- オンライン会議比率



顧客DX指標
教育DX・研修DX

- DIFO 導入校／導入企業数
- 教材デジタル化対応件数
- 学習データ分析による改善件数
- 顧客満足度(CS)



DX人材育成
指標

- 社員学習時間(年間)
- 技術資格取得数
- 新技術導入件数